

戦前期沖縄における移動と文化の流動性 —初期沖縄移民の芸能活動を事例に

栗山新也 (文学研究科 日本学)

1. 調査の目的

世界的規模での糖業の再編に伴って県外への人口移動が生じる一九二〇年代以降の沖縄近代史を流亡した人々の伝統芸能から描き直す。

2. 分析の枠組み

芸能活動の表面的な考察ではなく、移民先における沖縄出身者の階層・職業・ジェンダー構成および政治経済的事象を視野に入れた移民社会の総合的研究を目指す。

i) どのような芸能活動が営まれたか

どのような芸能ジャンルが支持されたか、あるいはどのような演目が上演されたか沖縄の同時代的状況を視野に入れた検討を行う。

ii) どのような人々によって営まれたか

芸能家の階層、ジェンダー構成、出身地、移民先での職業および地位に注目し、芸能活動を立体的に描き出す。

→ i)、ii)は基礎的な事実関係の確認作業である。しかしこうした作業は先行研究においてほとんど行われることがなかった。したがって資料収集とその資料化こそが本研究の成果そのものであり、この作業を契機により多くの研究が生み出されることに期待したい。

iii) 芸能をめぐる沖縄出身者のあいだでどのような議論が構築されたか

移民受け入れ社会から沖縄出身者に対して、またかれらの芸能活動に対して、どのような眼差しが向けられたか、あるいはそうした外からの眼差しを受けて沖縄出身者自身が芸能活動をどう受けとめたか、という二重の枠組みを視野に入れる。かかる検討において芸能活動に付着する観念の多様性を議論し、沖縄移民社会におけるコンフリクトを明るみに出す。

3. 調査概要

期間：2009年7月26日～8月14日

調査地：沖縄県立図書館（②③④⑤を所蔵）、沖縄県公文書館（②④⑤を所蔵）、国立国会図書館（①を所蔵）

一次資料…①日系社会で発行された新聞や雑誌、②沖縄の新聞

二次資料…③研究論文、④字誌、移民記念誌、⑤自伝、回想録

調査内容：文献、新聞史料の収集

収集できたのは、おもに次のような資料である。

i)字誌：移民の巻がもうけられた『具志川市史』『玉城村史』『北中城村史』…

ii)人名録：『琉球音楽人物事典』『沖縄人物名鑑』

iii)新聞資料：『ハワイ報知』『琉球新報』『沖縄タイムス』

iv)移民体験者や県人会の記念誌：『サイパン会誌』『はるかなるテニアン』…

4. 調査成果

最も成果の大きかった南洋群島への沖縄移民について述べる。

i)移民の規模と特徴、移民した人々の階層・職業・ジェンダー構成

「ソテツ地獄」／南洋興発／支庁別全国比

職業構成／自営業化

ii)芝居の巡業

役者の移動／テニアンの芝居小屋「球陽座」での上演

iii)音楽

雑誌『南洋群島』にみる「蛇皮線」／稽古／レコード

iv)南洋興発と芸能

争議とエイサー大会

v)成功者と芸能

劇場経営／角力

vi)料亭

芸妓の移動

vii)まとめ

大嶺氏の言説／悲惨だったはずの歴史を楽しく描くこと

5. 今後の課題

本発表では紹介できなかったが、国立国会図書館で収集した『布哇報知』の芸能関係記事からは、多くの知見が得られた。ハワイやブラジルで発行された日系新聞の調査をすすめることで、「日本移民」の仮面を被りながら帝国を越えていった人々の芸能活動の実態へとさらにせまってみたい。